



ゆりかご園だより

2023-11-1

3期(10~12月)のねらい
手を使って作り出す活動
を中心に園生活を豊かに

昨日、秋晴れの中、園庭でも煮会が行われました。本場山形形の「芋煮会」と違い、ゆりかごの「いも煮会」は北海道の秋の味覚じゃがいもを煮て食べます。この行事、いつから始まったのか、記

憶が定かではありませんが、おそらく40年近く続いているゆりかごならではの行事です。

「もったいない、何かに使えそう」と廃材を利用し、おもちゃや生活に必要な道具を作り自分たちの生活を豊かにする保育活動をしています。枯れ枝も活用するのがゆりかご子。

前もって、あひるやはとりす組の子たちが散歩で拾い集めた枯れ枝や松葉などを、ぞう組が園庭にかまどを作って燃やし、芋を煮てくれます。煙がすごいので目や鼻を抑える子や、少し離れたところに避難する子、小枝をかまどに恐る恐るスれる子もいます。りす組の子は煙いのを我慢してかまどに近づき「来年は自分たちの番」と、自作のうちわであおぎながらぞうさんの応援、ホクホクのできあがったじゃがいもにバターやマヨネーズをつけて、みんなでおいしくいただくのです。

そんな子どもたちが楽しみにしていた「いも煮会」ですが、今年は残念なことに、インフルエンザの流行で欠席の子が多く少ない人数で取りくまなければならぬことに、例年は4~5つのかまどを作りますが、今年は2つ、少ない人数で子どもたちはよくがんばりました。

りす組も少ない人数でしたが、せせと枝を運び、うちわであおいでいました。そんな子どもたちに「次はあなたたちだね、ぞうさんになったら頼むね」と声をかけると、Mくんが「そんなの無理、壁のぼりだ、てムッチャ無理だし」と暗い表情でこたえたのでした。「あれ? どうしてぞう組が運動会でやった壁のぼりが出るの?」と一瞬思いましたが、Mくんにとってぞう組の子たちは、いろいろなことができる「すごいなあ~」と思う存在なのでしょう。すると、隣にいた同じクラスのIちゃんが「えー、大丈夫だよ、ぞう組になったらきとできるよ、Mはりすさんの戸板越えだ、てがんばったらできたじゃん、ぞう組の壁のぼりだ、てがんばって練習したらきとできるよ」と言ってくれました。私が「そ、かあ、いっぱい練習したもんね、おいも煮るのもがんばったらできるかもね」と声をかけるとMくんは「ちょ、ぴりだけやってみようかな」と表情も明るく変わったのでした。

運動会でがんばったことが自信となり「やってみよう」と意欲になる。保育活動は決して点ではなく線や面になっていく、子どもたちの心の成長にもつながっているのだなあと思つて、改めて思った「いも煮会」でした。